

製品名: SRPK1 (リン酸化 Thr601) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06086**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	SRPK1
別名	SRSF protein kinase 1 (EC 2.7.11.1) (SFRS protein kinase 1) (Serine/arginine-rich protein-specific kinase 1) (SR-protein-specific kinase 1)
遺伝子 ID	6732.0
SwissProt ID	Q96SB4
免疫原	ヒト SRPK1 (リン酸化 Thr601) 由来の合成ペプチド

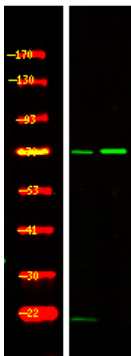
背景

触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: Ser-51 および Ser-555 のリン酸化に

よって活性化されます。機能:スプライシングの制御ネットワークにおいて中心的な役割を果たし、間期細胞におけるスプライシング因子の核内分布と有糸分裂中の核スペckルの再編成を制御します。中期には SFRS1 や SFRS2 などの RS ドメイン含有タンパク質のセリン残基を過剰にリン酸化しますが、間期にはそのレベルは低くなります。SFRS1 に結合して安定した複合体を形成し、RS ドメインを連続的にリン酸化します。HBV コアタンパク質のリン酸化を媒介すると思われます。これはプレゲノム RNA がウイルスカプシドにエンカプシド化されるために必要な条件です。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: 7つの構成要素からなる複合体であるトポソームに存在し、染色体分離の際に絡み合った環状クロマチン DNA を分離する。アイソフォーム 1 の延長した N 末端ドメインは、核骨格関連タンパク質 SAFB に結合することから、このアイソフォームは核マトリックス近傍のスプライシング因子をリン酸化する可能性が示唆される。組織特異性: アイソフォーム 2 は主に精巣で発現するが、心臓、卵巣、小腸、肝臓、腎臓、膵臓、骨格筋にも低レベルで存在する。アイソフォーム 1 は精巣にのみ存在し、アイソフォーム 2 よりも低レベルで存在する。

研究分野

画像データ



HepG2 細胞 1 個、LPS 100 ng/mL 30 分処理 2 個を、一次抗体を 1:1000 希釈でウェスタンブロット分析した。二次抗体は 1:10000 希釈で行った。